



※このフォームをご利用いただくか、ご自分で作成していただいて構いません。

■ 名 前 (ふりがな)	磯谷 優介
■ グループ名	
■ 学校名	能生町立能生小学校
■ 学 年	3 学年
■ 年 齢	8 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	大王 武さん (地域のお年寄り)、磯谷正二 (父)・美智子 (母)

■ レポートした場所	新潟県西頸城郡能生町 能生海岸
■ レポートの題名	「弁天岩の右ひだりー今と昔」
■ 内 容	<p>「弁天岩の右ひだり 百千の岩のつらなりて なせる自然の舟だまりひろえどつきぬ 大海の 幸の数々わだつみの みめぐみふかき我郷里」ぼくの学校の校歌です。</p> <p>ぼくの学校は来年、創立百三十周年をむかえます。校歌の中で、昔から歌われてきた「弁天岩の右ひだり」の今と昔を調べました。「弁天岩」は能生海岸にあり、海の町能生のシンボルとして親しまれています。弁天岩の右ひだりにも大小色々な岩があって、とてもきれいな景色です。</p> <p>東小町の大王武さん 76 才は、よく子供のころ家のすぐ後ろが海だったので、この岩の上で手作りのつりざおにイカの足をぶら下げて、魚つりをしたそうです。つれたのはベラ・ゴロ・アブラメ。それに岩に上がってくるサザエを「夜なで」という方法でとったそうです。おきの一つ岩目指して、泳ぎの競争もしました。今でも子供の頃の夢をよく見るそうです。</p> <p>だけど、冬になると海は大シケになって高い波がおそいかかり、家が何度もこわされて「おっかない、切ない」思いをしていたそうです。波の被害を少なくするために、大王さんが子供の時に、防波堤の工事が進んで新しい岩がふえました。おかげで、海のすぐ近くにあるぼくの家は、風でゆれることはあっても波でこわされる心配はありません。</p> <p>弁天岩の右左の岩は、魚づりや海草とりができる岩、子供たちの遊び場の岩、高い波から家を守ってくれる岩がなっています。そして、昔からある岩にも新しくできた岩にも一つ一つに名前や昔話がついてい</p>

て、地域の人たちの生活と強く結びついていることがわかりました。

■ 写 真 名 前

※写真や資料で、自分のもの以外を使用する場合は、必ず、何の資料か、誰の写真かなど、連絡先や住所などをメモして保存しておいてください。公表する際に、必要となります。

※本文（内容）と写真は、セットとして、メールで送信するか、郵送してください。

※この用紙以外でも構いません。

